

任意団体 うどんまるごと循環コンソーシアム

うどんまるごと循環プロジェクト

助成活動がメディアに掲載された回数 20 回以上

うどん等（食品廃棄物を含む）回収量 200 トン
(2015年)

活動の全体目標に対する達成度 70%



小麦収穫体験

◆成果と工夫したポイント

●成果

食品廃棄物の受入れは、提供者が増加。肥料が使用される場所も増えた。また、肥料商品化のための情報収集ができた。小学校4校、中学校1校で授業を行い、エコツアーには計約150名が参加。報道件数は20件以上。

●工夫

様々な機会をチャンスと捉え、幼児から大人まで、幅広い層への働きかけを行った。

課題

香川といえば、さぬきうどん。食べ残し等で廃棄されるうどんは現在、ほとんどが焼却処分だが、焼却ではない方法（バイオガス化、発電、堆肥化）でエネルギーを循環させたい。

目標

廃棄うどんをより多く受け入れ、バイオガス化する量を増やす。また、その残渣を肥料化して農地に還元し、育てた小麦をうどんにする。それらの循環を環境教育や取材で広く知っていただき、環境問題に対する意識向上も狙う。

活動内容

うどん残渣等の食品廃棄物の受入れ量を増やすため、広く周知を行った。液体肥料を固形化し、ご使用いただく農家を増やす取組みを行った。肥料を撒いた畑で小麦の栽培を行い、うどんを作るという循環の過程を、小中学校での環境教育、エコツアー等で紹介し、理解を深めた。また、先行・類似プロジェクトの視察を行い、肥料の商品化についての情報収集を行った。報道機関への情報提供を頻繁に行い、取材を通して広く活動の周知を行った。

達成できなかったこと

提供者は増えたが廃棄物受入量は減少。安定した廃棄物提供者が不在。肥料は一般利用が多く、農家まで広がっていない。マーケティング不足で肥料商品化が具体化していない。

今後の展望

全体の活動に加え、香川県と食品廃棄物全体の減少を目指し、5年計画でプロジェクトを進行させていく予定。



うどんエコツアーで
バイオマスプラント見学